

アイロンによる折目付け効果

愛知学芸大学岡崎分校 平尾 あや

化繊布のアイロンかけ温度並にプリーツに関する研究は数多いが、縫製時又は衣類整理時の折目処理の目的でアイロンかけを行う際の問題については不明瞭で、日常大体的見当でアイロンかけを行っている。

化繊布のうち、レーヨン・アセテート・ナイロン・ビニロン・テトロン等をウールと対比し、(1)経・緯・斜布にあらわれる性格 (2)アイロン種類による差 (3)アイロンかけの温度 (4)アイロンかけの時間等の影響をみた。

これら要因については三元配置の計画をたてて実験を行い、アイロンかけ5分後及び7日間放置後の状態について統計的に解析した。

結果は (1)レーヨンはウールよりも折目がつき易く消えやすい。ナイロンはウールよりつき難く又消え難い。アセテートとテトロンとの比較ではテトロンがつきにくく消え難い。然し 220°C 処理ではレーヨン>ウール>ナイロン>テトロン>アセテート>ビニロンの順で経日後も変化はない。(2)アイロンかけ直後の布方向には差がないが、その折目の消え方には差がつく。(3)スチームアイロンにより折目は一般によくつく。然しテトロンはスチームの効果がない。(4)温度は 220°C の結果がよい。

(5) 7 個の平均かけ時間は 3 秒の結果がよく、2 秒と 3 秒には
大差はない。